

国際交流を通して世界の文化を見つめる

東京プライム・シンフォニー オーケストラ

群馬音楽センター公演

2023年9月30日(土)



群馬音楽センター設計
アントニン・レーモンド
(1888-1976)
Antonin Raymond

特別協賛：株式会社レーモンド設計事務所



マチネ・昼公演

日韓特別ガラコンサート

15:00開演

曾我 大介(指揮) 鈴木 美知瑠(司会)

金古 萌然(ヴァイオリン) ウ・スヒョン(ヴァイオリン) 里見 莉衣乃(ヴァイオリン) 大竹 温子(ヴィオラ)
キム・スンヨン(ソプラノ) キム・スンイル(作曲)

特別協賛：株式会社井ノ上



◀群馬音楽センターへの旅

ソワレ・夜公演

第31回定期演奏会

18:30開演

曾我 大介(指揮) 鈴木 美知瑠(ナレーション)

イ・ユンソ(ヴァイオリン)

新井 晶子(ソプラノ) 三輪 英(ソプラノ) 角田 和弘(テノール) 江原 実(バリトン)

主催：一般社団法人東京プライム・シンフォニーオーケストラ、群馬音楽センターを愛する会、株式会社空間あい

共催：一般社団法人群馬オペラ協会、NPO 法人日本少年少女オーケストラ協会

後援：駐日韓国大使館 韓国文化院、群馬県、高崎市、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、群馬楽友協会

高崎国際音楽協会、群馬県日韓親善協会



TOKYO PRIME SYMPHONY ORCHESTRA

PROGRAM

日韓特別ガラコンサート 2023年9月30日(土)15:00開演(14:30開場)

指揮／曾我 大介 司会／鈴木 美知瑠 管弦楽／東京プライム・シンフォニーオーケストラ

第1部 日韓期待の若手ソリストの共演

金古 萌然(ヴァイオリン) *Mone Kaneko (Violin)*

W. A. モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調 K.216 第1楽章
W. A. Mozart / Concerto for Violin and Orchestra in G major K.216 1st mov.

ウ・スヒョン(ヴァイオリン) *Woo Suhyeon (Violin)*

ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26
M. Bruch / Concerto for Violin and Orchestra No.1 in g minor Op.26

里見 莉衣乃(ヴァイオリン)／大竹 温子(ヴィオラ) *Riino Satomi (Violin) / Atsuko Otake (Viola)*

W. A. モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364 第1楽章
W. A. Mozart / Sinfonia concertante for Violin, Viola and Orchestra in E-flat major K.364 1st mov.

—— 休憩 INTERMISSION (10分) ——

第2部 韓国を代表するディーバ キム・スンヨンを迎えて

キム・スンヨン(ソプラノ) *Kim Soon Young (Soprano)*

キム・スンイル／3つの韓国オーケストラ歌曲
Kim Seung Il / Three Orchestral Songs on Korean Poems

—秋の祈り—Autumn Prayer —愛と平和—Love and peace —別れ(哀歌)—Sad Song

W. A. モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」より“スザンナはまだこないわへどこへ行ったのかしら”
W. A. Mozart / 《la nozze di Figaro》〈e Susanna non vien - dove sono〉

ロッシーニ／歌劇「セビリアの理髪師」より“今の歌声は”
G. Rossini / 《Barbiere di Siviglia》〈Una voce poco fa〉

第31回定期演奏会 2023年9月30日(土)18:30開演(18:00開場)

指揮／曾我 大介 ヴァイオリン／イ・ユンソ ソプラノ／新井 晶子、三輪 英 テノール／角田 和弘 バリトン／江原 実
ナレーション／鈴木 美知瑠 管弦楽／東京プライム・シンフォニーオーケストラ

第1部 韓国の新星、華麗なる日本デビュー

イ・ユンソ(ヴァイオリン) *Lee Yoon Seo (Violin)*

ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
L.v.Beethoven / Concerto for Violin and Orchestra in D major Op.61

—— 休憩 INTERMISSION (15分) ——

第2部 モーツァルト - オペラで聴く恋のカタチ -

《Various love stories heard in Mozart's operas》

歌劇《フィガロの結婚》より

序曲／二重唱「5、10、20」／アリア「ついにこの時がきた—遅れないで素晴らしい喜びよ、お願いだからきてください」／
カンツォーナ「恋とはどんなものかしら」／アリア「もう飛ぶまいぞこの蝶々」

《Le nozze di Figaro》〈Overture〉

〈Duetto (Suzanne/Figaro)〉〈Arie (Suzanne) “Giunse alfin il momento – Deh vieni, non tardar o gioia bella”〉
〈Canzona (Cherubino) Voi, che sapete〉〈Aria (Figaro) Non più andrai, fallfallone amoroso〉

歌劇《魔笛》より

「恋人か女房が一人いれば」／「私にはわかる、消え去ったのね」／「誰でも恋の喜びを知っている」／
フィナーレから「パパゲーナ、パパゲーナ、パパゲーナ」～「パ・パ・パ(二重唱)」

《Die Zauberflöte》

〈“Ein Mädchen oder Weibchen”〉〈“Ach ich fühls, es ist verschwunden”〉〈Alles fühlt der Liebe Freuden〉〈Pa pa pa Papagena〉

PROFILE

曾我 大介 | 指揮 | *Daisuke Soga, Conductor*



ブザンソン、コンドラシンの二大指揮者コンクール第1位での優勝を始め、数多くのコンクールで上位入賞。日本、ヨーロッパ、南米を中心に世界各地で活躍を続け、2017年にはルーマニア・ブラショフ・フィルの日本ツアーを大成功に導いた。ルーマニア国立放送響首席客演指揮者、大阪シンフォニカー響音楽監督などを歴任。東京ニューシティ管弦楽団とは2005年から2022年3月まで17年にわたり信頼関係を築き、楽団の発展に大きな足跡を残した。音楽祭や講習会の講師、コンクール審査員、作曲家としても活躍中。著書に『ベートーヴェン、21世紀のウィーンを歩く。』など。令和3年度外務大臣表彰受賞。

金古 萌然 | ヴァイオリン | *Mone Kaneko, Violin*



2010年7月生まれ。5歳よりピアノ、7歳よりヴァイオリンを始める。現在、所沢市立南陵中学校1年次在学中。

〈受賞・出演歴〉 2022年 第8回日本ジュニアヴァイオリンコンクール 11歳ソロ部門4位入賞

2023年 第44回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 小学6年生の部全国大会奨励賞受賞

第44回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 入賞者披露演奏会出演

サントリーホール・ブルーローズにて

ウ・スヒョン | ヴァイオリン | *Woo Suhyeon, Violin*



第4回音楽教育新聞社大邱支社全体大賞、第64回音楽教育新聞社1位及び梁山アートホール入賞者演奏会、第37回イェジン音楽コンクール低学年の部1位、第53回シティフィルハーモニー管弦楽団協演、マイコンテストコンクール初等部大賞、イドゥンクラシック音楽コンクールヴァイオリン部特賞。

牙山病院とソウルオーケストラが共にする白血病患者支援後援音楽会協演。

師事: ホン・ウィヨン、ナムリン (現) ソウルシンジュン小学校2年生在学中、7歳。

里見 莉衣乃 | ヴァイオリン | *Riino Satomi, Violin*



群馬県出身。6歳よりヴァイオリンを始める。

桐朋学園大学音楽学部卒業。在学中に、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンに桐朋学園オーケストラとして出演。第8回みおつくし音楽祭大阪クラシックコンクール第3位及び審査員賞受賞。第17回セシリア国際音楽コンクール室内楽部門第3位。

フランス、ブラハ、ウィーン、イギリス、アメリカ、タイ、カンボジア、ラオス等世界各地の演奏旅行に参加。カンボジア王宮にて開催されたカンボジア王妃記念演奏会や、世界遺産アンコール・トムで開催された交流演奏会にてソリストを務める。

クラクフ音楽大学夏期国際音楽アカデミーマスタークラスにてDominika Falger氏に師事。現在では、プロオーケストラの客演や室内楽の他にもレコーディングやライブサポート等幅広い分野で活動している。これまでに、ヴァイオリンを秋葉美果、木野雅之の各氏に師事。Quartetto Richesseメンバー。

大竹 温子 | ヴィオラ | *Atsuko Otake, Viola*



群馬県高崎市出身。

名古屋芸術大学音楽学部演奏学科ヴァイオリン専攻卒業。卒業後にヴィオラに転向。同大学の研究科をヴィオラ専攻にて修了。国際教育助成事業のオーディションにて優秀賞を受賞、選拔されロシア国立モスクワ音楽院の全学費免除推薦を受け、同マスタークラスにてディプロマを取得。夏期はopera classicaのオーケストラメンバーとして渡独し1ヶ月間ヨーロッパ各地でオペラ公演に参加。現在、関東、東海、関西地方を中心に室内楽、国内オーケストラの客演など演奏活動しながら後進の指導にあたっている。ヴァイオリンを日比浩一に、ヴィオラをY.Tkanov、石橋直子、鈴木学の各師に師事。

Quartette Richesseメンバー。セシリア国際音楽コンクール室内楽部門第3位。

PROFILE

キム・スンヨン | ソプラノ | *Kim Soon Young, Soprano*



ソプラノのキム・スンヨンは大韓民国の漢陽大学音楽大学声楽科を首席卒業した後、ドイツのマンハイム国立音楽大学修士および最高演奏者課程を修了し、東亜音楽コンクール、ソンジョン音楽コンクール、スイスジュネーブ国際コンクールなど国内外多数のコンクールに入賞。

これまでドイツハイデルベルグオペラフェスティバルに主役出演およびスイスジュネーブ劇場主催のアルバム録音に参加し、ハンセ大学音楽学部招聘教授、世宗大学音楽学部外来教授などを歴任し、国立オペラ団ではラ・トラヴィアータ、魔笛、セビリアの理髪師、愛の妙薬、コジ・ファン・トゥッテ、ラ・ボエーム、メリー・ウィドウなど多数のオペラ主役として出演して大韓民国オペラ大賞特別賞、2015 ミュージカル最高女優新人賞などを受賞。

また、国内外でザグレブ・フィルハーモニー、ローマ・シンフォニー、チェコ・フィルハーモニー、KBS交響楽団、コリアンシンフォニー、釜山市響、蔚山市響、大田市響など有数のオーケストラと多数共演。

彼女はKBS開かれた音楽会、ザ・コンサート、文化しおりなど多数の公演を行い、ジャンルをさらに拡張してミュージカル領域でも大きく活躍しながら国内に熱烈なファンダムが形成されている現在韓国最高のソプラノの一人。

キム・スンイル | 作曲 | *Kim Seung Il, Composer*



大韓民国朝鮮大学校師範大学音楽教育科及び同大学院卒業。大韓民国朝鮮大学校師範大学音楽教育科教授(1974-2008)、米国テキサス工科大学音楽学部及び、ノースカロライナ州立音楽部大学研究教授、朝鮮大学校師範大学長(1999-2001)。現在、朝鮮大学校名誉教授。

2008年<音楽への招待>というインターネット講座を開発、オンラインで嶺南大学、朝鮮大学校、韓国海洋大学校、ウソク大学校で講義した。

<音楽活動> 個人作曲発表会7回(1970、1975、1984、1992、2008、2010、2012.)、キム・スンイルピアノ演奏会(2005)、金スンイル創作歌曲集アルバム「出盤」(1986)。

<著書> 音楽美学入門、キリスト教典礼と洋楽の変遷、クラシック音楽の聞き取りなど著書11編。

イ・ユンソ | ヴァイオリン | *Lee Yoon Seo, Violin*



ヴァイオリニストのイ・ユンソは梨花京郷コンクール1位、KCO全国音楽コンクール1位、少年韓国日報コンクール1位など国内有数のコンクールで優勝し、イエウォン学校を首席入学し、早くも卓越した才能を示した。イ・ユンソは錦湖英才コンサートに選ばれ数回のリサイタルを開催し、以後大関嶺国際音楽祭ライジングスター音楽会、ベルギー王妃招請特別音楽会などに出演するなど多数の音楽会に招請された。これまで英国RBC&ソウル芸術高校チェンバーオーケストラ、チューリッヒチェンバーオーケストラ、水原市立交響楽団など国内外多数のオーケストラと共演し、2021年香港HKGNA(Hong Kong Generation Next Arts)国際コンクール2位および特別賞を受賞。イ・ユンソはソウル芸術高校を経て現在ソウル大学音楽大学に在学中。

新井 晶子 | ソプラノ | *Akiko Arai, Soprano*



東邦音楽大学声楽科卒業、二期会オペラ研修所修了、草津国際音楽アカデミーマスタークラス受講。声楽を友石和子、佐浦國男、朝倉美幸の各氏に師事。これまでに「魔笛」侍女2、「フィガロの結婚」バルバリーナ等に出演。また群馬オペラ協会公演では、榛名湖・湖上オペラ「白馬亭にて」のクララ役、「みづち」黒姫役で出演。群馬オペラ協会会員、群馬音楽協会会員、二期会会員。

三輪 英 | ソプラノ | *Hana Miwa, Soprano*



創造学園大学創造芸術学部音楽学科声楽コース卒業。第47回高崎新人演奏会、第28回ぐんま新人演奏会、読売新聞社主催第80回新人演奏会等に出演。今までに「みづち」八重、夕月姫、「こうもり」ロザリンデ、「オズの魔法使い」北の魔女、「白馬亭にて」オッティエリエを演じる。その他にも、藤原歌劇団団員企画コンサートに出演するなど県内外で活動。群馬町コーラス指導者、群馬オペラ協会会員、藤原歌劇団準団員。

角田 和弘 | テノール | *Kazuhiro Tsunoda, Tenor*



国立音楽大学声楽科卒業、同大学院修了。85年イタリア声楽コンクールでミラノ大賞受賞。86年D A A Dの給費留学生として、ミュンヘン国立音楽大学へ留学。88年3月「椿姫」のアルフレードで藤原歌劇団にデビュー。89年からは文化庁在外研修員としてミラノに2年間留学。コセンツァ・バタフライ・コンクール第2位。帰国後は新国立劇場・藤原歌劇団を中心に活躍。現在、日本オペラ振興会（藤原歌劇団・日本オペラ協会）団員委員会委員長、一般社団法人群馬オペラ協会代表理事・会長、榛名湖・湖上オペラ総監督。

江原 実 | バリトン | *Minoru Ebara, Baritone*



武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。2001年よりイタリアへ留学。その後藤原歌劇団のメンバーとして多くの公演に出演。09年「ラ・ジョコンダ」のツアーネでデビュー以降、「仮面舞踏会」シルヴァーノ、「蝶々夫人」ヤマドリ、「みづち」村長、「袈裟と盛遠」平清盛、「天守物語」山隅九平、「静と義経」佐藤忠信、など出演している。群馬オペラ協会では「フィガロの結婚」フィガロ、「カルメン」エスカミーリョ、「夕鶴」運ず、「魔笛」パパゲーノ、等多数出演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。群馬県出身。

鈴木 美知瑠 | 司会・ナレーション | *Michiru Suzuki, MC・Narration*



群馬県前橋市出身・高崎市在住。高崎経済大学附属高等学校音楽コースピアノ科卒業。日本大学芸術学部音楽学科音楽理論コース卒業。リトミック研究センター指導者会員。大学卒業後より群馬交響楽団移動音楽教室での司会・語りを務めるようになり、「森とオーケストラ」始め、多数のコンサートに出演。お話し音楽会の企画、演出も行っている。J:COMチャンネル群馬局「ウィークリートピックスぐんま」キャスター。ナレーター&リポーターとしても活動中。

一般社団法人東京プライム・シンフォニーオーケストラ TPSO *Tokyo Prime Symphony Orchestra*



TPSOは、2007年国内外で活躍するフリーランスの演奏家や在京オーケストラメンバーにより新たな演奏の可能性と芸術性を求めて創立されたオーケストラで、創立以来、おもにアジア諸国との友好増進、文化芸術交流及び音楽芸術の発展をその目標として、韓国をはじめ、国内外多数のクラシックフェスティバルに招待されている。これまでに30回の定期演奏会を含む100回以上の特別企画演奏会を行い活動している。

東京プライムシンフォニーのメンバーは、個々人がソリストとしての能力を持っており、これまで数多くの演奏活動を通じて高い技量と水準により、音楽会で好評を受けてきた。現在、曾我大介を首席指揮者に迎えている。

メンバー表

コンサートマスター／浜野考史 1st Vn.／坂口正明 三宅政弘 能澤摩耶 松村一郎 塗矢真弥 三国富美子 副島聖代
2nd Vn.／○桑田穰 鈴木葉子 笹川哲史 羽賀智美 小森陽子 鄭成麗 Va.／○河野理恵子 檜山尚志 手塚貴子 春木英恵
Vc.／○高田剛志 朝吹元 榎岡絵里香 福井綾 Cb.／○駒井朗 野田浩次
Fl.／○白石法久 島田沙織 Ob.／○大隈淳幾 猪子京子 Cl.／○西尾郁子 櫻田はるか Fg.／○柿沼麻美 小田光
Hr.／○小川敦 古越恵美 渡部由佳 千葉大輝 Trp.／○ローリー・ディラン 小野美海 Timp.／○岡昭男 Cel.／石渡由恭

○首席

日韓特別ガラコンサート

第1部

日韓期待の若手ソリストの共演

W.A. モーツァルト：

ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調 K.216

第1楽章

ヴァイオリン：金古萌然 Violon：Mone Kaneko

モーツァルトの時代の協奏曲は、その単純明快かつ華麗なフレーズで独奏者の妙義を引き立たせ、聴衆の耳を楽しませる華やかな音楽であった。優れた協奏曲のキャラクターについて、モーツァルト自身の手紙の言葉を借りるならば「むずかしいのとやさしいのとの中間のもので、とても派手で、耳には快いが-もちろん空疎に墮してもいないといった具合で-音楽通でなければ満足を得られない箇所も二、三ありますが-通でない人々もなぜかわからないながら、きっと満足できるというふうにかかれています。」となる。

モーツァルトは生涯にわたり、さまざまな楽器のための協奏曲も残しているが、5つのヴァイオリン協奏曲はいずれもモーツァルトが19歳だった1775年に集中して書かれている。その理由として、モーツァルト自身がヴァイオリンのソリストとして演奏していたこと、ザルツブルグでヴァイオリンのソロが流行っていたこと、ザルツブルグ宮廷楽団のイタリア人のコンサートマスター、アントーニョ・ブルネッティほか複数のソリストの存在、が考えられる。

第3番の完成は9月12日。モーツァルトのイタリアや、ウィーンで培った音楽の経験が見事に活かされている。

第1楽章・アレグロは、通常の協奏風ソナタ形式で、この年の4月に上演した音楽劇「牧人の王」のアミンタのアリアと酷似する、重音が弾ける爽やかな第1主題で始まる。そしてオーケストラの間奏を経て、ジェットコースターの登り降りのような音階の技巧が披露されると、ごく短いオーケストラのエピソードを挟んで、今度は広い音域を自由に跳躍する、といった具合に対照的な技巧に彩られる。展開部では転調の妙技も使われ、二短調のシリアスな部分が現れたかと思うと、ハ長調の優美なメロディが現れる。

ブルッフ：

ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調 作品26

ヴァイオリン：ウ・スヒョン Violin：Woo Suhyeon

マックス・ブルッフ (1838-1920) は、ブラームスの5年後にケルンに生まれたドイツの作曲家で、各地で指揮者として活躍。そして晩年はベルリンで教育活動に従事し、大勢の弟子を育成したことで知られている。そのなかには日本の山田耕筰も含まれる。

その作品はオペラ、交響曲、室内楽曲、多数の美しい合唱曲などを多岐にわたっているが、なかでも弦楽器のための作品にその特徴が見られる。これは彼が作曲において「旋律は音楽の魂である」という言葉を残したほど優美なメロディを書くことにこだわり、そのフォーマットとして弦楽作品を好んだためらしい。

そして、すべての彼の作品の中で圧倒的に有名なのは、今日演奏される「ヴァイオリン協奏曲第1番」である。1866年ブルッフが28歳のとき作曲されたこの曲は、初演後当時の傑出したヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムのアドバイスを得て改作、ロマン派ヴァイオリン協奏曲の傑作として永遠の命を得た。

曲は通常の協奏曲と同じく3楽章からできているが、第1楽章を「前奏曲」としたり、第1楽章と第2楽章をつなげてしまったり、様式的にはユニークである。

第1楽章「前奏曲」はアレグロ・モデラートで、ティンパニの弱奏につづく木管の憂いを帯びた前奏のあと、レチタティーヴォ(叙唱)風のヴァイオリンのカデンツァは聴くものを最初から虜にする。管弦楽のフォルテの後、奔放で個性的な第1主題をヴァイオリンが力強く歌い出す。次いで管弦楽の部分があって、優美な第2主題が現れこれが展開されてゆく、曲が速度を増し、激しいオーケストラの間奏ののち、序奏の旋律が再現。切れ目なしに次の楽章へ滑り込んでゆく。迫力と華やかさに満ちた楽章である。

第2楽章アダージョ3/8拍子はブルッフ独特の抒情的な旋律に魅せられる美しい楽章で、自由なソナタ形式で書かれている。主題は三つあり、最初の主題はピアノの弦楽器に支えられた敬虔な主題で、これに続く第2の主題は、引き続いて弦とホルンの伴奏でヴァイオリンが奏でる。第3の主題はオーケストラの低音楽器群が

奏するおおらかな主題で、ヴァイオリンのオブリガートがその主題を修飾する。

第3楽章フィナーレ、アレグロ・エネルジコは、速いテンポによる2拍子の終曲で、ソナタ形式で書かれている。オーケストラが遠くから近づいてくるようにピアノからクレッシェンドすると、情熱を帯びた力強い第1主題を独奏ヴァイオリンが奏し、管弦楽がこれに続く。第2主題はオーケストラによって奏されヴァイオリンによって展開される、線の太い雄大な旋律である。このあとヴァイオリンの技巧を駆使した華やかな展開部を経て、第1主題がふたたび管弦楽で奏され、第1主題にもとづく速く激しいコーダ(結尾)で曲を結ぶ。

W.A. モーツァルト：

ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364 第1楽章

ヴァイオリン：里見莉衣乃 Violin：Riino Satomi
ヴィオラ：大竹温子 Viola：Atsuko Otake

協奏交響曲とは複数の楽器のための協奏曲を指し、モーツァルトの時代のパリやマンハイムで流行をしていた。モーツァルトはさまざまな楽器の組み合わせの協奏交響曲を複数手掛けているが、完成され今日まで残っているのは1779年にザルツブルグで作曲されたこれ1曲だけである。

この曲では協奏曲第3番の項で述べた「単純明快かつ華麗なフレーズ」は影を潜め、変化に飛んだ強弱法や表現力豊かな旋律が表出している。これはモーツァルトが旅先のパリやマンハイムで出会った多様な音楽の経験が、自らの作曲法の成熟とともに現れた結果であろう。これはのちのウィーンに移住してからの傑作群の出現を予期させる作品でもある。

2つの独奏楽器の競演と対話、独奏楽器と管弦楽の一体感、独奏ヴィオラの伴奏を念頭に二部に分けられたオーケストラのヴィオラなど、この曲の独創性を上げればきりがなし。今日演奏される第1楽章の最後にはすでに書かれたヴァイオリン協奏曲とちがい、モーツァルト自身が作曲した素晴らしいカデンツァが用意されている。ザルツブルグ時代のモーツァルトの間違いなく頂点に立つ傑作である。

第2部

韓国を代表するディーバ キム・スンヨンを迎えて

キム・スンイル：

3つの韓国オーケストラ歌曲

—秋の祈り—愛と平和—別れ(哀歌)

ソプラノ：キム・スンヨン Soprano：Kim Soon Young

I:秋の祈り 作詩：キム・ヒョンスン Kim Hyeon Seung

〈歌詞日本語訳〉

秋には祈らせてください

落ち葉が散る時を待つ

私にくださった謙虚な母国語で

私を満たさせてください

秋には愛させてください

たった一人を選ばせてください

最も美しい実のために

この肥沃な時間を養わせてください

秋には一人でいられますように

私の魂

曲がりくねった海と百合の谷間を通って

枯れ枝の上にたどり着いたカラスのように

秋には祈らせてください

II:愛と平和 作詩：キム・スンイル Kim Seung II

〈歌詞日本語訳〉

全能の主の前に罪深いこの身をひれ伏します

我が彷徨を導き愛で満たされんことを

主の愛と安息と平和、このすべてが主の下にあり

汚れたこの体をきれいに清め、主の前に出て

ひざまずいて祈る

心から祈る

我が身を哀れに思い、お許してください

暗くて長い煩惱 疲れた私の魂

主の胸中に抱かれんことを

主の愛の前に歩み出られることを

主の恩寵、主の愛、主に願います

主よ、我を守りたまえ

主よ、我を守りたまえ

アーメン

Ⅲ:別れ(哀歌) 作詩:イ・チャンデ Lee Chang Dae

〈歌詞日本語訳〉

君が去った心の空白が痛くても
息詰まる別れは言わないだろう
ここに吹いてくる風が悲しくて
あそこで鳴る鐘の音寂しくても
じっと耐えて聞く
流れる川沿いに胸はときめいても
言わないだろう 別れの意を
君が去った心の空白が痛くても
私に眠らせよ 君の影を

W.A. モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」より

“スザンナはまだこないわ
～どこへ行ったのかしら”

ロッシーニ: 歌劇「セビリアの理髪師」より

“今の歌声は”

ソプラノ: キム・スンヨン Soprano: Kim Soon Young

日韓特別ガラコンサートの最後を締めくくる2曲は、超有名作曲家の珠玉の2曲である。一見この2曲は繋がりが無いように見えるが、実は両方とも同じ役柄の人物によって歌われる。この2つのオペラの題材になった、「セビリアの理髪師」と「フィガロの結婚」はフランスの作家、ボーマルシェによって書かれた続きの物語。

「セビリアの理髪師」は囚われの身のロジーナに恋をするアルマヴィーヴァ伯爵が、理髪師＝フィガロの機転でロジーナを救い出し、思いを遂げるまでが描かれる。

「フィガロの結婚」は数年後の物語。結婚した伯爵と伯爵夫人となったロジーナには倦怠期が訪れる。

一方、伯爵の家臣となったフィガロは女中のスザンナとの結婚を控えている。伯爵は新婦のスザンナにどうしても手が出したい、そこでスザンナと伯爵夫人は一計を案じ、お互いの衣服を交換、変装して意中の人の愛を取り戻す、というストーリーである。

つまり、今夜のどちらの Aria もロジーナという一人の登場人物によって歌われるのである。

ロッシーニはモーツァルトが亡くなって2ヶ月後にこの世に生を受けており、自身「自分はモーツァルトの生まれ変わりだ」と語ったこともあるとか。

歌詞意識

“スザンナはまだこないわ

～どこへいったのかしら”

〈レチタティーヴォ〉

スザンナはまだこないわ。

伯爵がこの計略をどう受け入れたのか不安だわ。

あんなに血気盛んで嫉妬深い夫には大胆な計略かも。

でもそれの何がいけないの？

夜の闇にまぎれて、スザンナと衣服を取り替えて・・・

おお天よ！あのひどい夫のために

私はなんという致命的な状態に追い込まれたの？

あの人は私を得てから、未曾有の不実や嫉妬や侮辱の塊で、私を最初は愛し、傷つけ、そして裏切って、

今や召使いに助けを乞うようなところまで追いやったの。

〈アリア〉

どこへいったのかしら、あの甘い喜びの時間は。

どこへいったの、あの偽りの唇が言った誓いの言葉は？

涙と悲しみの中で私にとってはすべてが変わったのに、

あの幸せな思い出はなぜ私の心から消えなかったの？

私の貞節がかわらず、あの人を愛し続けるのなら、

あの恩知らずの心を変えられるわ。

“今の歌声は”

〈レチタティーヴォ〉

今の歌声は私の心に響いたわ。

リンドーロは私の心を射抜いたの。

そう、リンドーロは私のものになるの。私は勝つよ。

私の後見人は拒否するわ。でも私は知恵を絞るの。

そして最後には彼をなだめて、私も満足するの。

〈アリア〉

私は大人しくしとやかで、従順で優しく可愛らしく

指図にはしたがっておくことにするわ。

でも一度私の弱点に触れたら、私はママシに変わるわ。

そして沢山の罫を私が降参するまで使ってやるわ。

(注:「リンドーロ」とは本物の愛を見つけるため、自分の身分を大学生と偽ったアルマヴィーヴァ伯爵の偽名)

第31回定期演奏会

第1部

韓国の新星、華麗なる日本デビュー

ベートーヴェン：

ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品61

ヴァイオリン：イ・ユンソ Violin：Lee Yoon Seo

ベートーヴェンはヴァイオリンをソリストとしてオーケストラと共演させる曲をいくつか手掛けている。その中で完成したものは2つのロマンス、ヴァイオリンとチェロ、ピアノとオーケストラのための三重協奏曲、そしてこのヴァイオリン協奏曲である。

このヴァイオリン協奏曲が書かれた前後には「熱情」ソナタ、ラズモフスキー弦楽四重奏曲、交響曲第4番などが完成。また交響曲第5番も並行して作曲が進められていた。傑作群のど真ん中でこの協奏曲は誕生したのである。

他の大作が生まれるなかで、この協奏曲はほぼ一ヶ月という急ピッチで作曲が進められた。おそらく、初演を行った当時の卓越したヴァイオリニスト、フランツ・クレメントから急な依頼があったから、と想像されている。ベートーヴェンは1806年の12月23日のクレメントが自身で主催した演奏会での初演の練習に作曲を間に合わせることができず、クレメントはほぼ初見で見事に演奏をして喝采を浴びたという。

初演直後の批評は、美しい箇所をみとめられるものの、構成に関しては疑問を呈するものであった。既存のヴァイオリン協奏曲に対してアイディアは奇抜、超弩級の作品が現れたのだから、初めて聞く人々にとっては面食らうことばかりだったであろう。当時協奏曲に聴衆が期待したのは、弾き手の技巧を味わうことが出来る単純かつ華麗なものであった。やがて19世紀の名手、ヨーゼフ・ヨアヒムの演奏によってこの曲は「ヴァイオリン協奏曲の王」たる地位を確保する。

◆第1楽章 ニ長調 アレグロ・マ・ノン・トロppo

4/4拍子 協奏曲風ソナタ形式

この協奏曲でもっとも奇抜なのは開始のピアノで奏されるティンパニの4つの音かもしれない。この4つの音がまさか第1楽章全体に渡って執拗に繰り返される主要動機であると、当時の人は誰が想像したであろうか？単純な動

機を冒頭に提示をして、執拗に繰り返すのは交響曲第5番と同じ書法である。ただし、交響曲は力強く「ダダダダーン！」こちらはごく弱く「トン・トン・トン・トン」である。そして続くオーケストラの主題はとても息が長く、雄大な印象を与える。第2主題の優美な音階のメロディでも背後にはこの「トン・トン・トン・トン」が控えている。

既に幾つかのヴァイオリンのための作品を書いたベートーヴェンにとっては、ヴァイオリンのソロの書法はお手のものであったに違いない。スケールの大きな曲の道筋はオーケストラに委ね、技巧的な装飾とパッセージでソリストを輝かせている。そこには同時代人であったヴィオッティを始めとするフランス風協奏曲の影響も見て取ることができる。第1楽章の白眉は、展開部の最後にト短調で初めて現れる哀愁を帯びたメロディであろう。やがてこのメロディも「トン・トン・トン・トン」で支えられ、オーケストラで壮大に演奏される再現部へと繋がってゆく。第1楽章の最後には定番のカデンツァも用意されている。

◆第2楽章 ト長調 ラルゲット 4/4拍子 変奏曲

簡素かつ単純な主題は弱音器をつけた弦楽器によって提示される。それが繰り返されるごとに独奏ヴァイオリンによって優美に修飾されてゆく。途中にエピソードとして挟まれる弦楽器の係留する和音に支えられたカンタービレの部分はまさに敬虔そのもの。突如弦楽器がフォルティッシモでフランス風序曲を思わせるリズムを刻むと、ソリストの短いカデンツァが披露され、間髪入れずに華やかな第3楽章に突入する。

◆第3楽章 ニ長調 ロンド 6/8拍子

最終楽章を華やかな躍動感のある楽章で締めくくる、というこのアイディアは後に数々のロマン派ヴァイオリン協奏曲に踏襲されることになる。

ヴァイオリンの舞曲を思わせるような弾む主題は、同じ和音のなかで最低音を長くし重さをおいて上行させることで、弓矢を引いて放つような運動エネルギーが感じられる。独奏とオーケストラが互いにボールを打ち返すように、緊密で素早いラリーを繰り返すのもこの楽章の聴きどころである。壮大なコーダ(結尾)のあと最後にオーケストラがデクレッシェンド、ソリストのppで消えるように終わるかと思いきや2つのフォルテの和音でこの大曲の幕が降りる。

第2部

モーツァルト – オペラで聴く恋のカタチ –

ナレーター：鈴木美知留

人が生きている場所にはかならず恋の歌が生まれる。ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) はその類まれなる才能で、人間の恋の心情の揺れ動きを、それぞれの恋の状況に応じ、オペラのなかで巧みに描き出した。今夜はモーツァルトの代表作、《フィガロの結婚》と《魔笛》のなかから、さまざまな恋のカタチを取り出して聴き比べしてみようという企画である。

W.A.モーツァルト：歌劇《フィガロの結婚》

歌劇《フィガロの結婚》は、フランスの劇作家ボーマルシェが1778年に書いた風刺的な戯曲を原作とする。

モーツァルトは同戯曲をもとに1786年に作曲した。

この作品にはイタリアのコメディア・デラルテ (即興喜劇) で見られるような、個性豊かな登場人物があらわれる。つまり、ストーリーのいかんに関係なく、旦那、奥方、女中、家来、小姓といった固定されたキャラクターが登場するのだ。日本では吉本新喜劇がその手法を取り入れている、というピン！と来る方もいるのでは？

この物語の舞台はスペインのアルマヴィーヴァ伯爵 (旦那) の宮廷。少し倦怠期を迎えている伯爵夫人、伯爵夫人にお仕えする女中、スザンナ。伯爵と伯爵夫人の恋仲を取り持った功績で伯爵の家臣となったフィガロ。伯爵の宮廷を我が物顔で歩き回っては女の人にちょっかいを出しまくるおませな小姓、ケルビーノなどが登場する。

フィガロとスザンナは、結婚を目前にして気持ちもはずむ毎日。一方、二人の雇い主アルマヴィーヴァ伯爵は、スザンナをものにしようたくらんでいる。そこでフィガロとスザンナは伯爵夫人も巻き込んで、計略を練って伯爵の企みを阻止、伯爵は無事に元のさやに収まりフィガロとスザンナは愛でたく結婚する、というあらすじである。

演奏曲目

①序曲：急速な展開の喜劇を思わせる明るい序曲

②「5、10、20」〈結婚間近の幸せなカップルの歌〉

フィガロ (江原実)、スザンナ (三輪英)

③「ついにこの時がきた – 遅れないで素晴らしい喜びよ、お願いだからきてください」

〈男性にやきもちを焼かせる恋の歌〉 スザンナ (三輪英)

④「恋とはどんなものかしら」

〈恋への憧れを歌う少年の歌〉 ケルビーノ (新井晶子)

⑤「もう飛ぶまいぞこの蝶々」

〈恋に浮かれた少年を懲らしめる歌〉 フィガロ (江原実)

W.A.モーツァルト：歌劇《魔笛》

モーツァルトが世を去るわずか2ヶ月前の1791年9月30日、ウィーンで初演された傑作オペラ。

夜の世を司り、昼の世の制覇も目論む夜の女王、昼の世を守る賢者ザラストロ、この二人が君臨する世界。このいわばファンタジーの世界にやってきたのが東洋の王子、タミーノ。タミーノはこの世界で鳥を捕まえて生計を立てている、ちょっとおっちょこちょいなパパゲーノに会う。二人は魔法の笛と鈴の力を借りて、モノスタートスに襲われそうになっていた女王の娘、パミーナを救う。

ザラストロの指導のもと、数々の試練を乗り越えたタミーノはパミーナと結ばれる、またパパゲーノもパパゲーナという伴侶を得る。夜の女王とモノスタートスは地獄に落ち、大団円となる。

演奏曲目

①「恋人か女房が一人いれば」

〈恋と結婚に憧れるモテない男の歌〉 パパゲーノ (江原実)

②「私にはわかる、消え去ったのね」

〈勘違いの失恋の歌〉 パミーナ (新井晶子)

③「誰でも恋の喜びを知っている」

〈モテない男がお姫様に夢中〉 モノスタートス (角田和弘)

④「パパゲーナ、パパゲーナ、パパゲーナ」

〈引き離された恋人への想いと絶望〉 パパゲーノ (江原実)

— 続けて — 「パ・パ・パ」 〈～そして再会のしあわせ〉

パパゲーナ (三輪英)、パパゲーノ (江原実)

特別協賛・協賛・クラウドファンディング支援者一覧

(敬称略・順不同)

本日の公演を実現するにあたり、匿名を含めてたくさんの方々に
ご支援をいただき感謝申し上げます。

新井 里枝
地域づくり団体榛名まちづくりネット
星 和彦
ヨシダ設備興業株式会社
小野 美音子
演劇プロデュース とろんぶるいゆ
松浦 幸雄
株式会社 井ノ上
田中 一雄
株式会社 レーモンド設計事務所
綱島 信夫
佐藤 良明
綿貫 不二夫
山本 隆之
株式会社 EBIYA
曾根 正弘
小畑 史郎
太田 直樹
株式会社 清水
清水 啓二
添川 秀樹
中澤 照雄
金井 暢一
中川 令子
さわやか歯科クリニック
久保田 淳子
芹沢システムリサーチ
内山 美奈
株式会社 原人社
大聖護国寺
学校法人蒼羽芸術学園グループ
日下 孝美
糸井商事 株式会社
石井 節子
羽鳥 修二
板垣 信道
木村 智
中村 正義
岡田 ひろ子
高瀬 卓三
有限会社 洛楽
吉村 晴子
岩崎 肇
大須賀 カヨ子
豊田屋旅館
平成歯科クリニック
南 繁芳
金沢 富夫
出来田 三智子
松尾 進
清水 すみ子
鎌田 佐知子
北村 善哉
向後 陽子
真柳 仁
日下 敬介
加藤 旭光
藤田 充孝
友光 勇一

木下 美樹
笹木 理恵
小山 範之
岡 昭男
渡会 裕之
板垣 悟
宮本 将志
三原 啓史
東野 珠実
城田 幸子
小池 茂
島田 英子
N.N
萩森 英明
佐藤 誠孝
亀田 美香
押尾 梅夫
荒井 ルミ
風岡 優
須藤 元
市毛 弘
羽鳥 一夫
松本 梅頌
渡辺 恭伸
田中 康子
新井 嘉彦
藤井 浩
眞下 良美
重田 実
大宮 登・智江
鈴木 麻里子
金井 章男
KUWABARA TAKAYOSHI
仲戸川 知恵子
秋山 剛
石塚 徹
猪瀬 学
心を唄う♡沢田知佳
神宮 靖範
千葉 真康
近藤 秀子
吉村 巳之
田中 悠一郎
齊藤 峯子
増村 隆一
星名 美幸
清水 正樹
青山 淳一
小材 尚子
能宗 美佐子
株式会社藤田ビジネスプロモーター
株式会社北澤建築設計事務所
吉垣内 英子
安川 京子
竹内 一普
佐々木 妙子
浜野 崇
柘植 美咲
蔭山 陽太

飯野 亮一
波多野 重雄
中山 和美
林 理恵子
柘植 美幸
五十嵐 勇人
笹島 栄治
宮川 清吾
潮 博恵
熊倉 浩靖
熊倉 幸子
戸澤 義夫
諸田 勝
押尾 梅夫
阿久澤 章二
船水 康宏
福嶋 頼秀
梅津 正好
大嶋 義実
奈良 のりえ
神澤 愛香
横尾 順
飯塚 裕子
小林 里奈
大谷 明
高崎経済大学卒業生
吉田 尚之
城代 悠子
中島 明日香
外山 はる美
山田 修平
菊池 仁美
TAKATOSHI MORITA
永井 直子
長谷川 直美
澤田 まゆみ
三宅 陽子
島田 俊雄
一般社団法人ワークスタジオ群馬
ベルカントジャパン合同会社
下條 暁乃
久保川 雅彦
関口 慶太
花井 好機
中島 裕美
横山 瑞史
飯井 雅裕
山岸 光一
里吉 名知夫
有花園 亀田 慎也
外処 友延
浜野 富美子
大西 政明
上野 毅
南 紳一
小島 立
丸岡 良康
小笹 俊介
廣瀬 泰文

堀口 芳明
竹内 洋伸
中西 ミカ
清水 一也
松川 博光
藤村 知史
ピアノプラザ群馬
富澤 敏彦
岡田 恵子
阪本 隆一
金古 香代子
友松 寛
久保田 和人
内山 厚志
田嶋 広士
福嶋 頼秀
友岡 邦之
鬼木 和浩
池田 英子
竹吉 さやか
白水 裕憲
奥村 秀策
志村 美土里
稲見 成能
飯野 晃史
小林 健一
森 伊織
小坂橋 保徳
宮崎 比呂志
野口 禎一郎
T.H.
山原 明子
青松 勝幸
青松 福沢
小笹 陽子
A・U・S建築設計事務所
株式会社しみづ農園
株式会社プリエッセ
水上勝之建築研究室
三国 晃
三国 怜子
松原 真由子
群馬楽友協会
高崎国際音楽協会
大畑亜樹夫
慈眼院 橋爪良真
萬総寺

※プログラム作成行程上、ここにお名前を掲載できなかった方もいらっしゃいます。ご理解いただければ幸いです。

※掲載にあたっては、十分留意しましたが、誤字脱字がありましたら、お許しください。

※掲載することによって、支援者に迷惑かかと判断した方については、掲載しておりません。御了承ください。

レーモンドのレクイエム

新井 浄 (あらい きよし 元群馬交響楽団事業局長・群馬音楽センター館長)

原点の非戦、群響が演奏

往年の名作映画「ここに泉あり」のモデルで地方オーケストラの老舗である群馬交響楽団にとって、3月10日は記念すべき日である。1945年11月、戦後の荒廃の中で平和と文化国家を目指して生まれた高崎市民オーケストラ(群響の前身)が、猛練習の末、翌年のこの日第1回定期演奏会を行ったのだ。音楽会は、晴れ着姿の人々がいっぱいになり、平和で華やかな雰囲気、聴衆はひたっていた。それは、約十万人が一夜で死亡したとされる東京大空襲から、ちょうど1年後のことだった。

その群響を、93年から音楽監督として育て上げた指揮者・高関健の任期中最後の演奏会が、2007年3月20日に本拠地の群馬音楽センター(群馬県高崎市)で、23日にはすみだトリフォニーホール(東京都墨田区)で行われる。曲目はイギリスの作曲家ブリテン(1913-76)の「戦争レクイエム」だ。

第二次世界大戦中のドイツ軍による空襲で破壊された英コヴェントリー市の大聖堂が戦後に再建された、その祝賀献堂式のために書かれた大曲である。ブリテンはテキストに、通常のレクイエム(鎮魂ミサ曲)で用いられるラテン語の典礼文に加え、第一次世界大戦で若くして戦死したイギリスの詩人、ウィルフレッド・オーウェンの英語詩を用いた。スコア(総譜)の冒頭には、オーウェンの詩の一節が引用されている。

「私の主題は戦争であり、戦争の悲しみである。詩はその悲しみの中にある。詩人の為し得るすべてとは、警告を与えることにある」。この言葉には、戦争を二度と繰り返さないためのブリテンの深い祈りが込められている。

墨田区は、東京大空襲で最も被害が大きかった地域だ。高関音楽監督はこの曲の演奏を以前から構想しており、それが本拠地とともに、この地で実現する。また私たち楽団関係者の胸中には、もう一つ去来するものがある。それは、群馬音楽センターを設計したアントニン・レーモンド(1888-1976)への思いだ。

彼はチェコ出身で、プラハ工科大で学んだ後渡米。建築家フランク・ロイド・ライトのスタッフとなり、ライトが帝国ホテル(東京・内幸町)を設計・施工するのに伴い来日した。

後にライトから独立し、群馬音楽センターや三重大学レーモンドホール(津市・登録有形文化財)、南山大学(名古屋市、日本建築学会賞受賞)など、歴史に残る仕事を手がける。また前川國男、吉村順三ら多くの弟子を育てた。日本におけるモダニズム建築・デザインの先駆者であり、モダニズムと日本の伝統、自然と景観との一体化をいわゆる「レーモンドスタイル」において実現したのだ。



音楽を愛し、チェロの演奏を楽しんだレーモンド(1956年撮影、レーモンド設計事務所提供)

「日本の近代建築の父」とも呼ばれるこの功労者には、しかし複雑な視線が送られてきた。その理由は奇しくも東京大空襲にある。この作戦を計画するにあたり、米戦時局は日本の木造長屋を正確に設計し、砂漠に下町を再現。いかに「効率的」に焼き尽くすかを実験したのだ。それが可能であったのは、戦時局に依頼されたレーモンドの協力があつたからだ。

レーモンドは自叙伝で述べる。「私と妻にとって、日本を負かす意味をもつ道具をつくることは、容易な課題ではなかった。日本への私の愛情にもかかわらず、この戦争を早く終結させる方法は、ドイツと日本を可能な限り早く、しかも効果的に敗北させることという結論に達した」。

その苦渋は、今日の私たちからは計り知れない。自身が渡米した後、ナチスドイツによって処刑されたり、消息不明になってしまったりした五人の妹や弟を思ったのだろうか。

彼の故国チェコの有名な「ブラハの春国際音楽祭」に、群響は94年に参加。国民的な作曲家ドヴォルジャークの「レクイエム」を演奏し、大成功を取めた。そこにもレーモンドのとの宿命的な結びつきがあるように感じ取られない。そして今年、高関音楽監督と群響は「戦争レクイエム」を奏でる。それは、戦争で亡くなった多くの人々とともに、近年再評価が進む日本近代建築の父に贈る「レクイエム」となるかもしれない。

2007年3月10日 東京新聞、中日新聞夕刊に掲載されたものを加筆修正したものです。

アントニン・レーモンドによる設計 Designed by Antonin Raymond

群馬音楽センターの設計は、井上房一郎と戦前より親交のあったアントニン・レーモンドによって行われました。

二人は共に「戦後の復興のために文化活動を推進させよう」という共通の志を持っていました。また音楽センター設立のための市民運動に対して大いに感激したレーモンドは、設計の正式依頼前から、市民にイメージを伝えるための設計模型制作(第1案、第2案)を無料で引き受けました。

井上がレーモンドに依頼した設計の内容は、音楽を良質に聴くことができるホールであること、歌舞伎などの演劇も上演できること、さらに低予算でつくること等、厳しいものでした。当初、レーモンドの事務所から出された第1案は、円形で中央にステージがあるアリーナ型ホールでしたが、井上の「歌舞伎ができない」との一言で取りやめられ、続く第2案は9つのゆるやかなアーチが美しいものでありましたが、ステージ上のフライタワー(段々などの舞台装置を格納する施設)の高さが景観を損なうとのレーモンドの意見で却下されてしまいます。その2年の後、たまたま机に広げていた東京・銀座の歌舞伎座の平面図にレーモンドが扇形のプランを描いたことから、これを原案として第3案が誕生しました。

レーモンドは音楽センターの設計に当たり3つの方針を掲げました。第1に市民の寄付を使うのであるから、無駄を一切省き長持ちして使える経済的なものであること、第2に観客と演者とが一体となるよう、ステージと客席が同一面にあり、ホール自体が楽器のように鳴り響くこと、第3に高崎城址の敷地に建てられるため、周りの石垣や松、濠などの景観を損なわないよう、また当時建設予定地北側にあった旧市庁舎のタワーより低くなるようにすることでした。

こうして完成した群馬音楽センターも年月を重ねるごとに老朽化し、幾度も改修をしましたが、そのいずれも内装・外装およびその機能をほとんど変えずに行われました。機能が終われば建物の使命も終わりという「使い捨て」的な近代建築の考え方の中で、補修して末長く使用し続けるということは、レーモンドの考える建築作品の在り方であり、脱近代化を目指すものでもありました。